

児童朝会 校長の話 9月11日

今からちょうど100年前、大正12年9月1日に東京を中心とした大きな地震、関東大震災がありました。13年前の東日本大震災より大きな地震だったのではないかとされています。東京中の6割の建物が壊れたり焼けたりしてしまい、東京だけで7万人の人が亡くなったり行方不明になりました。そんな大きな地震が起きたとき、浅草の町や浅草小学校はどうしていたのかをお話します。

関東大震災が起きる前の浅草の写真です。明治時代と大正時代です。今の浅草公会堂や花屋敷、演芸ホールなどがある地区です。中央に剽悍池があります。そしてその周りに立派な建物がたくさん建っ



います。映画館や劇場、オペラ座、飲食店やお店がたくさん並んで、東京一番の歓楽街、大勢の人が遊びに来る中心地でした。その中でも特に高い建物、浅草十二階、正式名は凌雲閣が見えます。当時、日本で一番高い建物で、中には電動式の日本初のエレベーターもあったそうです。そんな賑やかな浅草の町が、大正12

年の大地震で、跡形もなく崩れ、焼けてしまいました。凌雲閣は上の11階12階部分が壊れてしまいました。浅草の町の93%が焼けてしまったと言うのですからほとんど焼け、浅草小学



校も9月1日の夜7時頃に全焼してしまったそうです。火災が広がって人々が荷物を持って逃げている様子の絵があります。崩れかけた浅草十二階も描かれています。そしてなんと子象が描かれています。その近くに、花やしきの幟旗も立っています。昔、花やしきにはい



ろいろな動物がいたそうです。猿芝居の幟旗もありますから、サルが芸当をしていたのでしょう。そして、大人のゾウと子供のゾウがいました。大人のゾウは焼け死んでしまいましたが、子象はなんとか助け出したいと花やしきの人たちが縄を

付けて連れ出しました。子象は浅草寺の五重の塔の辺りまで逃げてきたそうです。そして、ほとんど焼け尽くされた中で、焼けずに残った建物があります。浅草寺と五十の塔、浅草神社です。写真を見ると宝蔵門と



その奥に浅草寺観音堂、五十の塔が見えます。どうやって焼け残ったかという、瓢箪池の水をバケツで汲んで長い列を作ってバケツを次々にリレーして水をかけたそうです。そうして浅草寺に逃げてきた人たちは助かりました。

浅草小学校は焼けてなくなりましたが、地震から1ヶ月後、10月1日に浅草寺の裏庭で「授業を始めます。来れる人は集まってください」と呼びかけたそうです。すると184人の子供たちが集まりました。多くの子供が集まったように思いますが、その当時浅草小学校の児童は1500人くらいいました。ですから全校児童の中ではほんの少しの子供たちです。机も椅子も教科書もなくなっていました。米俵のわらを地面に敷いて、拾ってきた石に座り、空き箱などを机にして勉強をしました。11月になると、伝法院や浅草神社の空いている部屋を借りて5・6年生が授業を始めました。そして半年後、浅草小学校のあった場所に、集めてきた木材で建物を作り、仮の校舎を建てて学校生活



を始めました。次々に仮校舎を建て増して、みんなが勉強できるようになりました。写真を見ると大勢の子供たちが仮校舎の前に並んでいます。1000人以上いたのかも知れませんね。地震で学校がなくなっても授業をすぐに始め、仮校舎を建てて学校生活を続けて



いったんですね。この後、昭和の時代になって、立派な校舎が完成します。この続きは、また今度お話ししますね。

まだ、暑い日が続きそうです。熱中症に気を付けながら、運動会の練習、頑張ってください。